

## &lt;論 説&gt;

## 財務数値からみた享保一元文期の三井家大元方

西 川 登

## はじめに

近世の「江戸店持ち京商人」(京都を本拠にして、江戸に支店を置く商人)の典型の1つであった三井家は、1710年(宝永七)に家政と事業とを統轄するために、「大元方」(元方とは元締、統轄する人・場所といった意味)と云う名称の中央機関を創設した。三井家大元方は、法的な企業形態の面からは、三井同苗9家(後に11家に増加。同苗とは同姓の者、同族の意)の当主を持分所有者とする合名会社の持株会社の様なもので、管理組織形態の面からは、事業部制組織の本社機構の様なものであった(詳しくは、西川、1993、109-110頁参照)。「大元方」は、盆(七月十四日)と暮(極月=十二月晦日)との年2回決算を行い、『大元方勘定目録』と呼ばれる決算報告書を毎期作成していた(初期の『大元方勘定目録』が試行錯誤的に内容を変化させていく過程については西川(2002b)を参照されたい)。

扱、本誌『商経論叢』の第38巻第1号掲載の拙稿・西川(2002a)で「大元方」が成立した1710年上期から1718年(享保3)下期迄の10年間に亘る「大元方」の経営分析即ち財務数値による経営の分析を行った。本稿では其に引続き、1719年(享保4)上期から1740年(元文5)下期迄の「大元方」の経営分析を行う(1741年~1750年=寛保-寛延期については飯野(2002)を参照されたい)。

処で、三井家では、1694年(元禄7)に「元祖」三井高利が没した後、漸次的に組織改革を進めていった。1705年(宝永2)の「本店一卷」(「本店」は三井では京都・江戸・大坂の三都の呉服店をいう。一卷とは一纏めにしたもの、グループ、集団の意)の形成、1710年の「大元方」の創設、1719年(享保4)の「両替店一卷」の形成と云った大規模な組織改革の他にも、屢々組織変更を行った(中田(1959)254-270頁、三井文庫(1980)93-138頁)。1729年(享保14)にはほぼ組織形態が固まり、以後は、1773年(安永4)に三井同苗11家が3集団に分裂して企業分割が行われる迄は、1735年(享保20)に「間之町店」が「大元方」から直属から「両替店一卷」に帰属が変わった外には、事業組織形態に変化はなかった(三井文庫(1980)319-330頁)。従って、本稿では1719年上期から1728年下期迄と1729年上期から1740年下期迄とに分けて叙述を進める。猶、本稿を1740年下期で止めているのは、西暦・和暦とも切がよいため、他意はない(1741年は寛保元年)。本稿

に記す三井家大元方の財務数値は、特に断りのない限り、『大元方勘定目録』（三井文庫所蔵資料。猶、三井文庫（1973）には宝永七年=1710上期、享保九年=1724下期、元文四年=1739下期、安永元年=1772下期、及び文化十一年=1814下期の『大元方勘定目録』の夫々全文が翻刻掲載されている）に拠る。

## 1 1719年上期～1728年下期の資産・資本の推移

1719年（享保4）上期末より1728年（享保13）下期末迄の『大元方勘定目録』の貸借対照表部分を適当に要約して、「大元方」の資産・資本の推移を示したものを、《表1》として掲げる。本稿の表・図での貨幣額は総て銀の額に統一して集計してある。原資料の『大元方勘定目録』では、資産・負債・資本・収益・費用の夫々の合計額や純損益は銀額のみで表示されているが、内訳表示には金の合計額と銀の合計額との両者が使われている場合も多い。作図・作表に当っては原資料記載の換算値で金額を銀額に換えている。

此表の①「有銀」<sup>ありぎん</sup>は、「大元方」の変動資本金で、期首の「有銀」に当期の純利益（「延銀」<sup>のべぎん</sup>とか「延」と呼んだ）又は純損失（「遣過」<sup>つかいすぎ</sup>とか「不足」などと呼んだ）を加減したものが期末の「有銀」となる。「有銀」には積立金が含まれない（江戸時代には一般に積立金と引当金とを区別しない。江戸時代の簿記会計一般に就ては西川（1995）を参照されたし）。自己資本は企業分割以前の「大元方」では家屋敷を、原則として、貸借対照表に資産として計上せず、<sup>もとだて</sup>「元建差引」と云う名の資本修正計算部分に家屋敷を追補計上していた（高寺（1978）、西川（2002b）を参照されたし）。「元建差引」記載の家屋敷の評価額（<sup>ありいえ</sup>「有家」とか<sup>ありだか</sup>「家有高」と呼んだ）を銀額に統一して合計したものが、②の不動産評価額である。此不動産評価額を期末「有銀」に加算したものが、③<sup>ありもの</sup>「惣有物高」として「元建差引」に表示されている。「惣有物高」から不良債権額を差引して④修正資本金を筆者＝西川が算出した。三井家では資産の部を（江戸時代の慣行通り）「貸し方」と呼んだので、⑤の「貸し方」合計額が、家屋敷評価額を除外した資産の総額となる。⑥の不動産追加総資産額は、「貸し方」合計額に不動産評価額を加算して筆者が計算した。⑦傘下店への投融資額は、「大元方」から営業店への定額出資部分や資金需要に応じた融資、それに「大元方」に年賦納入されるべき営業店の留保利益振替額等を『大元方勘定目録』から筆者が拾集めて集計した。⑧の不良債権額は「利足積」<sup>りそくづみ</sup>（利息の入金銀額を、貸倒に備える為に収益として認識せずに、引当金乃至積立金に直入れしたもの）の対象債権を集計すべきであったが、計算手続が余りに煩瑣となる為に（其理由は西川（2002b）を参照されたし）、大名・寺社・町人等の外部者に対する債権と「同苗借財」（三井家当主達の「大元方」からの借入）の総てを不良債権と看做して、集計した。従って、本稿の図・表の不良債権額は若干の過大表示となるが、此等債権の殆どは、最終的には、不良債権整理の際に切捨てられている。⑨修正資産額は、⑥の不動産追加総資産額から⑧の不良債権（看做）額を差引して算出した。

表では貨幣額や比率の推移が分り難いので、《表1》の各項目と其等の比率をグラフにして、《図1》～《図4》に示す。1719年（享保4）上期末より1728年（享保13）下期末迄における「大

《表1》大元方の資産・資本の推移 1719年上期末～1728年下期末

	1719 上期	1719 下期	1720 上期	1720 下期	1721 下期	1722 上期	1722 下期	1723 上期
	金1両=銀45匁							
	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁
①「有銀」=不動産額除外資本金	6,873,927	6,924,206	6,953,808	6,997,821	10,074,010	10,152,562	10,173,439	10,270,437
②不動産評価額	1,831,000	1,895,850	1,896,000	1,896,000	2,980,813	2,980,813	2,980,813	2,958,313
③「惣有物高」=不動産額込み資本金	8,704,927	8,820,056	8,849,808	8,893,821	13,054,823	13,133,375	13,154,252	13,228,750
④修正資本金=③-⑧	8,174,230	8,368,668	8,481,800	8,433,971	12,442,762	12,564,911	12,451,750	12,412,378
⑤「貸シ方」合計=不動産除外資産額	7,911,434	7,971,411	7,999,964	8,076,914	12,329,356	12,254,449	12,156,321	12,074,597
⑥不動産追加総資産額=⑤+②	9,742,434	9,867,261	9,895,964	9,972,914	15,310,168	15,235,261	15,137,133	15,032,909
⑦傘下店への投融資額	6,106,254	5,437,913	5,727,413	5,428,663	9,419,952	9,750,977	9,476,107	9,806,613
⑧不良債権額	530,697	451,388	368,008	459,851	612,061	568,463	702,502	816,372
⑨修正資産額=⑥-⑧	9,211,737	9,415,873	9,527,956	9,513,063	14,698,108	14,666,798	14,434,632	14,216,537
対資産・資本金比率(不動産除外)=①/⑤	86.9%	86.9%	86.9%	86.6%	81.7%	82.8%	83.7%	85.1%
対資産・資本金比率(不動産込)=③/⑥	89.4%	89.4%	89.4%	89.2%	85.3%	86.2%	86.9%	88.0%
対修正資産額・修正資本金比率=④/⑨	88.7%	88.9%	89.0%	88.7%	84.7%	85.7%	86.3%	87.3%
対不動産除外資産・不良債権比率=⑧/⑤	6.7%	5.7%	4.6%	5.7%	5.0%	4.6%	5.8%	6.8%
対修正資産・不良債権比率=⑧/⑨	5.8%	4.8%	3.9%	4.8%	4.2%	3.9%	4.9%	5.7%

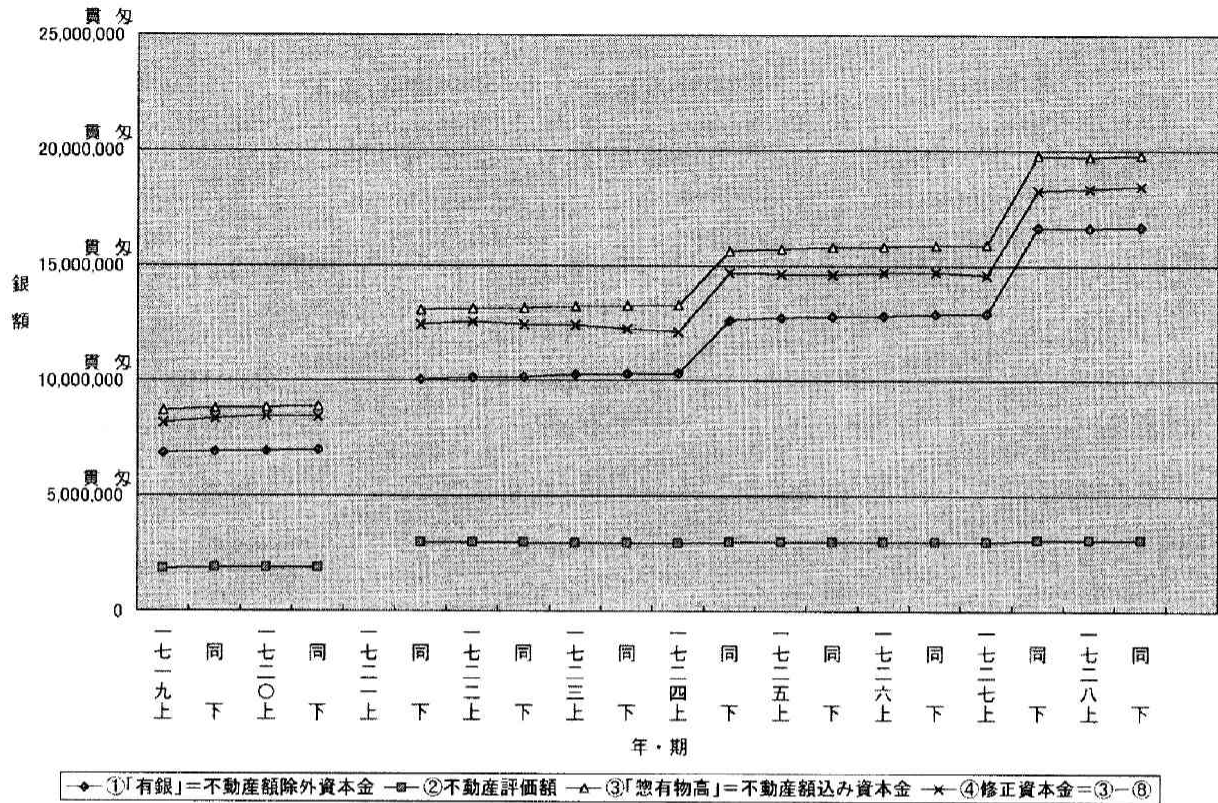
	1723 下期	1724 上期	1724 下期	1725 上期	1725 下期	1726 上期	1726 下期	1727 上期	1727 下期	1728 上期	1728 下期
	1両=45匁										
	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁
	10,306,681	10,337,276	12,647,140	12,735,677	12,810,039	12,830,404	12,894,898	12,909,868	16,676,965	16,636,036	16,701,085
	2,958,313	2,958,313	2,995,813	2,995,813	2,995,813	2,995,813	2,995,813	2,995,813	3,094,813	3,094,813	3,094,813
	13,264,993	13,295,589	15,642,953	15,731,489	15,805,851	15,826,216	15,890,711	15,905,680	19,771,777	19,730,848	19,795,898
	12,249,330	12,134,471	14,679,724	14,638,850	14,615,296	14,698,621	14,715,328	14,575,984	18,268,630	18,356,557	18,445,477
	12,158,675	12,682,895	15,996,020	15,571,627	15,121,242	15,759,765	15,307,090	15,338,408	17,805,116	18,386,714	17,939,491
	15,116,988	15,641,208	18,991,832	18,567,439	18,117,055	18,755,578	18,302,903	18,334,220	20,899,929	21,481,526	21,034,304
	8,769,053	9,349,303	10,995,941	11,355,941	9,877,045	10,057,045	9,835,045	9,143,326	11,887,778	11,490,931	10,938,021
	1,015,663	1,161,118	963,229	1,092,639	1,190,555	1,127,595	1,175,382	1,329,696	1,503,147	1,374,291	1,350,421
	14,101,325	14,480,090	18,028,604	17,474,800	16,926,500	17,627,982	17,127,521	17,004,524	19,396,782	20,107,235	19,683,883
	84.8%	81.5%	79.1%	81.8%	84.7%	81.4%	84.2%	84.2%	93.7%	90.5%	93.1%
	87.7%	85.0%	82.4%	84.7%	87.2%	84.4%	86.8%	86.8%	94.6%	91.9%	94.1%
	86.9%	83.8%	81.4%	83.8%	86.3%	83.4%	85.9%	85.7%	94.2%	91.3%	93.7%
	8.4%	9.2%	6.0%	7.0%	7.9%	7.2%	7.7%	8.7%	8.4%	7.5%	7.5%
	7.2%	8.0%	5.3%	6.3%	7.0%	6.4%	6.9%	7.8%	7.7%	6.8%	6.9%

(出所)「大元方勘定目録」(三井文庫所蔵資料, 資料番号=続2869~続2885)を要約

元方」の各期末の不動産等除外資本金額, 不動産評価額, 不動産込み資本金額, 及び不動産等込み資本金額から不良資産額を差し引いた修正自己資本金額の夫夫を折れ線グラフにして示したものが, 《図1》である。

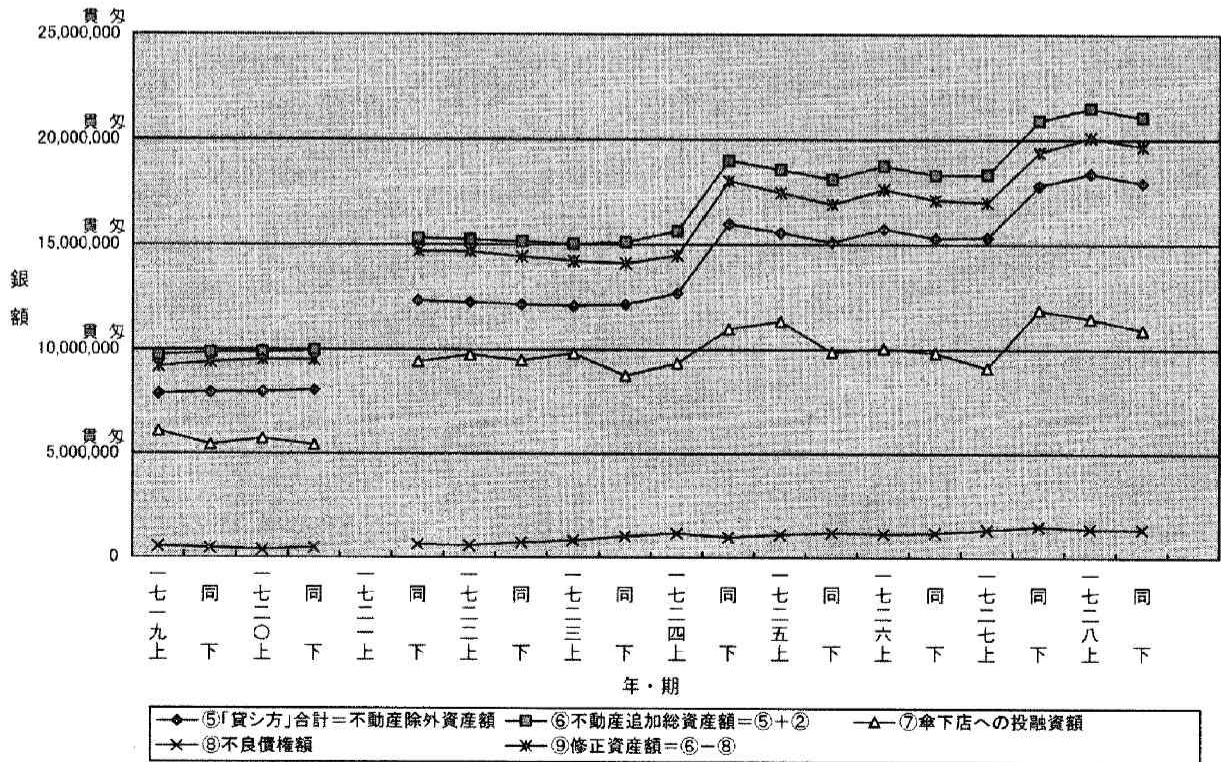
1721年(享保6)下期, 1724年(享保9)下期, 及び1727年(享保12)下期に①「有銀」, ③「惣有物高」, 及び④修正資本金が大きく増加しているのは, 「三年勘定」に因て, 傘下営業店の留保利益6期分の大半が「大元方」に振替られた為である。②不動産評価額が1721年下期に大幅に増額されているのは, 1719年(享保4)上期に一旦一律に切下げられた, 江戸と大坂にある

《図1》大元方の資本額と不動産額の推移 1719 年上期末～1728 年下期末



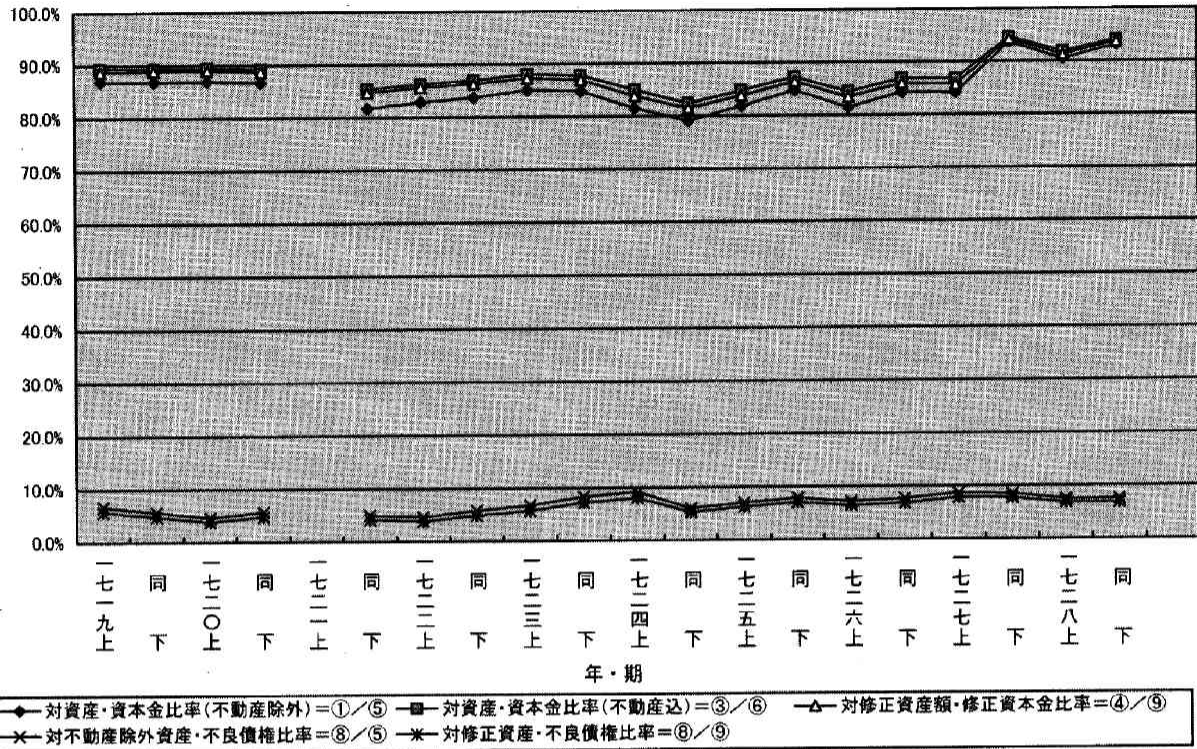
(出所)『大元方勘定目録』(三井文庫所蔵資料, 資料番号=続 2869~続 2885)を要約

《図2》大元方の資本額と不動産額の推移 1719 年上期末～1728 年下期末



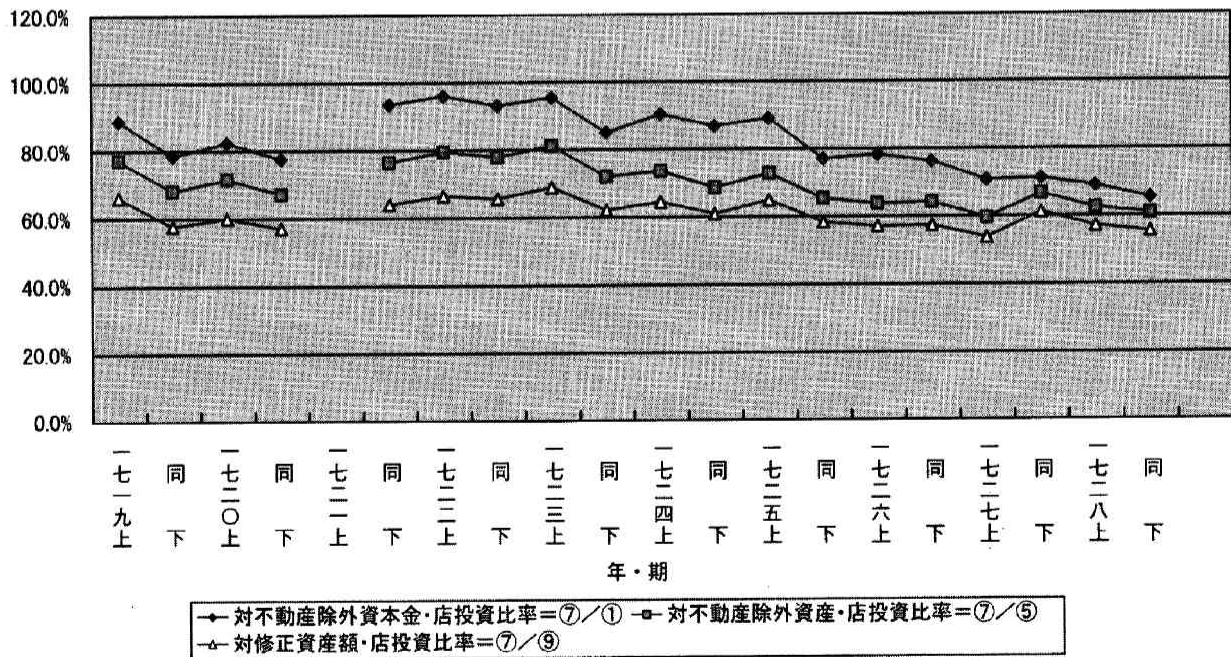
(出所)『大元方勘定目録』(三井文庫所蔵資料, 資料番号=続 2869~続 2885)を要約

《図3》大元方の資本金比率・不良債権比率の推移 1719年上期末～1728年下期末



(出所)『大元方勘定目録』(三井文庫所蔵資料, 資料番号 = 続 2869～続 2885) を要約

《図4》大元方の傘下店投融资比率の推移 1719年上期末～1728年下期末



(出所)『大元方勘定目録』(三井文庫所蔵資料, 資料番号 = 続 2869～続 2885) を要約

不動産評価額に対して「再度一律の修正」(今井(1974)199,200頁)が行われた事と、京・伊勢の不動産評価額が大幅に増価された事に因る(『大元方勘定目録』続2872,続2873)。

1719年(享保4)上期末より1728年(享保13)下期末迄における「大元方」資産額、店々への投融資額、及び不良債権額の夫々の推移を折れ線グラフにして《図2》として掲げる。

⑦傘下店への投融資額は、留保利益の振替額が「三年勘定」の際に一挙に増大し、其後「年賦納」で次の「三年勘定」迄に漸減するが、有利子融資の変動が大きいので(具体的な数値は省略する)、投融資総額の変動には一定の傾向が見られない。従って、⑤不動産除外資産額も⑥不動産追加総資産額も、①、③、及び④の資本金の様な綺麗な変化にはなっていない。⑧の不良債権(看做)額は、図表に具体的な数値を示さなかったが、1719年上期末の銀530貫余から1728年下期末の銀1350貫と漸増傾向にある。但、貸倒に備えた「利足積」が同時期に銀4貫弱から銀493貫余に増加している。

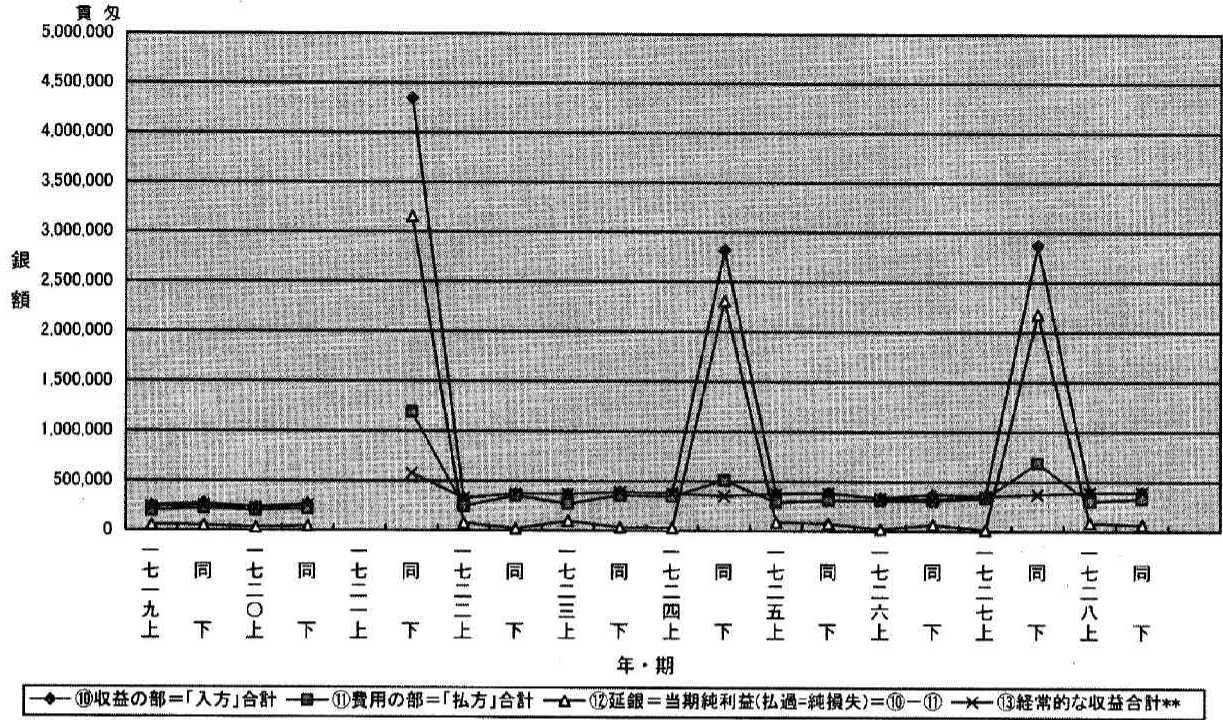
《図3》として、1719年(享保4)上期末より1728年(享保13)下期末迄における「大元方」の各期末の資産額に対する各種資本金額の比率、資産額に対する不良債権比率を折れ線グラフにして示す。

本稿では既述の如く各種の資産額及び資本金額を用いているが、資産に対する資本金の比率は何れも、1727年(享保12)上期迄80パーセント台で推移している。1721年(享保6)下期から、其以前に比べて資本金比率が若干落ちているのは、「三年勘定」で振替られた「両替店一卷」の留保利益が「有銀」に含められずに別置された(西川(2002b)170,171頁)為である。1727年下期に資本金比率が90パーセントを超えたのは、別置されていた「両替店一卷」からの留保利益振替額が「有銀」に含められる様になった為である。「利足積」や「元々手銀預り」(役員退職金引当金)、「旦那衆病用退銀」(「旦那衆」とは三井9家の当主達、「退銀」とは引当金・積立金を意味する)等の引当金・積立金の設定額が、1718年(享保3)上期以来、増加し続けるが(西川(2002b)175頁)、「有銀」も増加し続けているので、此等の設定額は資本金比率に大きな影響は与えていない。不良債権(看做)額の比率は、《表1》に示した様に、修正計算した(不動産評価額と不良債権看做額とを加減)資産総額に対する値でみると、1719年から1728年には最低3.9パーセントと最高8.0パーセントとの間で推移している。此時期には利貸債権が絶対額に於ても対資産額比率に於ても、後の時期に比べて非常に少なかったのである。

《図4》に、「大元方」から傘下の店々への投資額の資本金額や資産額に比率について、1719年(享保4)上期末より1728年(享保13)下期末迄の推移を、折れ線グラフにして示す。

「大元方」から傘下営業店への投融資額の、「有銀」(不動産除外資本金)額・「貸し方」(不動産除外資産)合計額・修正計算後総資産額の3者に対する比率は何れも、1721年下期に上昇しているのは、「三年勘定」に因て営業店の留保利益の9割が「大元方」に振替られる様になった為である(1割は奉公人への賞与引当金)。其後、何れも漸減傾向を示している主たる理由は、非常用に穴蔵や土蔵等に箱入封付で退蔵した金貨・銀貨＝「穴蔵金銀」の増大である。穴蔵金銀の額は、

《図5》大元方の収益・費用・純損益の推移 1719年上期～1728年下期



(出所)『大元方勘定目録』(三井文庫所蔵資料, 資料番号=統 2869～統 2885)を要約

銀に換算統一して, 1719年上期末の1029貫695匁余(『大元方勘定目録』統 2869)から1728年下期末に4883貫600匁余(同, 統 2885)と, 一貫して増加し続けた。

## 2 1719年上期～1728年下期の収益・費用・純損益の推移

《図5》に, 1719年(享保4)上期末より1728年(享保13)下期迄における「大元方」の各期の収益額, 費用額, 及び純損益の推移を折れ線グラフにして示す。

此図から「三年勘定」に由て6期毎に収益及び純利益が跳上っているのが明瞭に読取れる。収益の部=「入方」の合計額から「功納外延銀入」(店々の留保利益振替額), 「建直違徳」(為替差益), 「家代」(不動産処分額), 及び「浮有物入」(償却債権取立益)を差引て, 経常的な収益を計算すると, 毎期の収益はほぼ安定している。「三年勘定」の際に費用の部=「払方」の合計額が多くなっているのは, 不良債権の償却が主因である。此時期には, 可成り保守的な会計処理が行われ, 怪しい債権は積極的に簿外に落として置いている。従って, 償却済みの債権の取立益が収益の部に計上される事は件数・金額とも多かった。

収益・費用・純損益の状況をより詳しく見る為に, 『大元方勘定目録』の損益計算書部分を適当に要約して表にした。先づ, 1719年(享保4)上期より1728年(享保13)下期迄の収益の要旨を, 《表2》として掲げる。

《表3》に, 1719年(享保4)上期より1728年(享保13)下期迄の『大元方勘定目録』の損益計算書部分の内, 費用の部を適当に要約して掲げる。

《表 2》大元方の収益の部の要旨 1719 年上期～1728 年下期

「入方」(収益の部)	1719 上	1719 下	1720 上	1720 下	1721 上	1721 下	1722 上	1722 下
	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁
店々功納外延銀入						3,758,978		
内 本店						3,479,031		
綿店						232,777		
糸店						42,594		
小名木川店						4,577		
店々功納	182,500	187,046	189,046	189,046		205,080	199,250	199,250
内 本店	56,250	56,250	56,250	56,250		56,250	56,250	56,250
綿店	25,000	25,000	27,000	27,000		30,000	30,000	30,000
両替店	93,750	94,922	94,922	94,922		107,344	102,500	102,500
糸店	7,500	7,500	7,500	7,500		7,500	7,500	7,500
小名木川店		3,375	3,375	3,375		3,987	3,000	3,000
店々臨時納							86,628	86,628
内 本店							63,275	63,275
綿店							10,500	10,500
両替店							11,579	11,579
糸店							1,275	1,275
小名木川店								
江戸有家宿賃取立高、普請入目差引ノ	25,521	34,649	19,502	17,263		45,869	6,001	31,277
大坂有家宿賃取立高、町儀・普請入目差引ノ	1,008	1,470	1,254	1,542		3,102	3,357	2,896
日野屋店宿賃請取								
浮有物入	3,985	2,446	5,766	5,300		5,571	38	2,100
家代請取						750		
利足入払差引ノ取方	19,535	29,263	14,597	41,826		61,839	30,665	33,716
御為替方徳用入用差引ノ	4,368	1,094	1,509	65				
下屋敷宿賃、町儀諸入用差引ノ入二成ル								
金売買の歩、建相場直達徳入	16,821	16,940	183	6,747				
小判直達徳入						261,474	891	16,853
合 銀	253,738	272,908	231,857	261,790		4,342,664	326,831	372,722
経常的な収益*	232,932	253,522	225,908	249,743		577,365	326,793	370,622

1723 上	1723 下	1724 上	1724 下	1725 上	1725 下	1726 上	1726 下	1727 上	1727 下	1728 上	1728 下
銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁
			2,466,599						2,222,589		
			2,405,580						1,826,631		
			32,592						2,515		
			28,427						16,998		
196,250	196,250	194,137	193,750	193,750	193,750	183,750	183,750	183,750	185,750	185,750	185,750
56,250	56,250	56,250	56,250	56,250	56,250	56,250	56,250	56,250	56,250	56,250	56,250
30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	10,000	20,000	20,000	20,000	22,000	22,000	22,000
102,500	102,500	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500
			388								
75,327	75,326	67,436	67,436	98,930	98,930	87,370	87,370	76,410	77,150	97,310	97,310
55,800	55,800	48,284	48,284	70,850	70,850	62,100	62,100	53,350	53,350	67,500	67,500
8,350	8,350	7,500	7,500	7,400	7,400	7,400	7,400	7,400	8,140	8,250	8,250
11,178	10,076	10,674	10,674	18,400	18,400	16,400	16,400	14,400	14,400	20,000	20,000
	1,100	978	978	1,680	1,680	1,470	1,470	1,260	1,260	1,560	1,560
46,587	40,695	41,881	42,806	43,020	33,579	15,853	29,173	24,651	32,904	35,497	35,601
3,102	3,034	1,559	931	2,012	4,056	4,396	3,923	4,282	3,485	3,835	4,937
										860	860
				3,300	3,084		51,038				
									5,000		
36,257	57,224	50,653	33,988	18,168	56,221	23,866		38,706	51,810	50,849	57,533
12,237	18,055	21,156	13,034	19,545	15,812	14,982	15,062	23,548	16,227	15,607	12,163
		131						110		2	
									270,934		
1,048	169	407	359	167	340	259	733		4,630	88	658
370,809	390,753	377,362	2,818,903	378,291	385,172	330,476	371,050	351,457	2,870,479	389,797	394,812
370,809	390,753	377,362	352,303	374,991	382,088	330,476	320,011	351,457	371,956	389,797	394,812

\*経常的な収益 = 入方(収益)合計 - 功納外延銀 - 建直達徳(為替差益) - 家代(不動産処分額) - 浮有物入(償却債権取立益)  
(出所)『大元方勘定目録』(三井文庫所蔵資料, 資料番号 = 統 2869 ~ 統 2885) を要約



《表3》大元方の費用の部の要旨 1719年上期～1728年下期

「払方」(費用の部)	1719上	1719下	1720上	1720下	1721上	1721下	1722上	1722下	1723上
	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁
旦那衆御隠居料								11,600	13,100
旦那衆御賄方	84,754	83,996	96,086	89,311		103,222	89,731	168,240	172,718
旦那衆御賄方建の外御遣遇			7,148	20,836		43,128	47,983		
仲ヶ間出し切	64,193	86,634	54,819	46,159		775,430	21,639	92,906	26,146
御屋敷方附届入目	7,399	10,916	9,293	12,124		11,264	14,848	13,918	11,082
仲ヶ間普請料		5,240	2,100	3,530		204,662	30,555	17,909	1,512
旦那衆江戸上下路金	2,004	6,560	900	6,338		4,894	688	3,850	75
旦那衆於江戸御小遣雑用	12,248	8,705	8,994	10,638		16,677	6,909	9,067	7,710
店々役料	3,109	3,282	3,788	3,215		6,589	10,344	9,069	9,238
元ノ名代役料	24,038	14,538	17,038	23,038		21,038	21,038	21,038	28,540
元ノ隠動料									
御合力	420	845	721	1,052		700	1,745	1,038	1,920
諸方下屋敷入目	1,699	1,851	1,307	1,516		2,161	1,566	3,122	1,655
御為替方利足差引ノ損							1,191		
大元方会所小払		63	61	21		36	42	87	114
小判直違損									
合銀	199,863	222,629	202,255	217,776		1,189,801	248,279	351,845	273,811
入払差引ノ(当期純損益)	53,875	50,279	29,602	44,013		3,152,864	78,552	20,877	96,998

1723下	1724上	1724下	1725上	1725下	1726上	1726下	1727上	1727下	1728上	1728下
銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁
13,100	13,100	13,100	15,600	15,600	15,600	15,600	17,065	21,530	21,602	21,458
169,172	199,476	171,922	174,732	173,907	176,029	173,039	200,171	170,309	170,052	169,176
15,210	62,009	129,681	29,271	54,728	33,485	39,646	30,331	437,997	42,538	69,593
10,790	14,210	11,648	14,317	12,228	12,921	18,036	13,033	10,399	17,530	15,400
46,732		90,211			15,867	13,212	3,041		701	
2,475	5,643	1,650	5,885	3,125	6,292	2,100	4,350	1,180	2,585	6,105
11,220	14,205	5,521	12,781	11,064	9,314	10,153	13,040	9,390	7,587	9,966
8,898	9,177	8,519	9,014	9,076	9,649	8,679	9,113	9,071	10,500	8,795
21,040	21,500	21,470	21,470	21,470	21,470	21,470	18,970	19,495	19,495	18,670
3,000	3,000	3,000	3,000	2,000	2,000	2,000	4,500	4,750	4,750	4,750
1,075	1,925	1,073	1,928	6,089	4,475	920	4,370	3,583	4,680	3,532
1,561	2,443	1,136	1,611	1,365	2,100	1,013	934	1,078	1,098	2,235
237	79	107	146	159	911	687	65	133	444	82
50,000		50,000					17,504			
354,510	346,766	509,039	289,755	310,810	310,111	306,555	336,487	688,916	303,561	329,762
36,243	30,596	2,309,864	88,536	74,362	20,365	64,494	14,970	2,181,564	86,236	65,049

(出所)『大元方勘定目録』(三井文庫所蔵資料, 資料番号=続2869~続2885)を要約

### 3 1729年上期～1740年下期の資産・資本の推移

1729年(享保14)上期末より1740年(元文5)下期末迄の『大元方勘定目録』の貸借対照表部

《表 4》大元方の貸借対照表の要旨 1729 年上期末～1740 年下期末

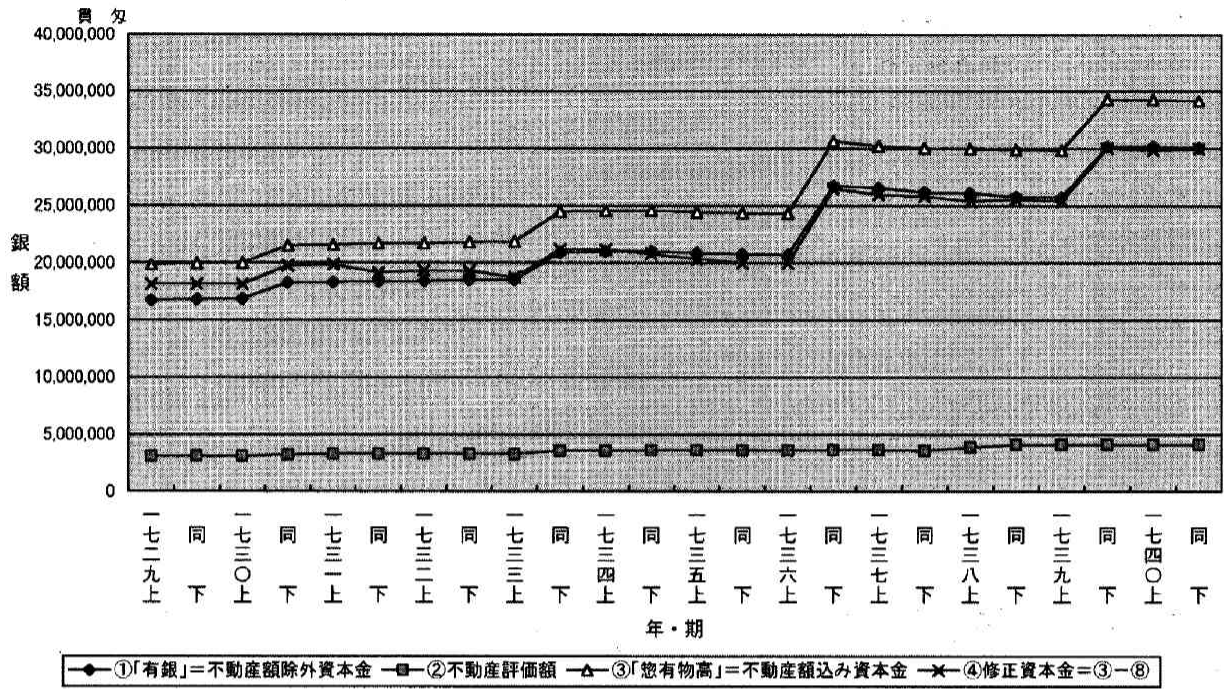
	1729 上期	1729 下期	1730 上期	1730 下期	1731 上期	1731 下期
①「有銀」=不動産額除外資本金	銀 貫 匁 16,765,234	銀 貫 匁 16,853,238	銀 貫 匁 16,897,707	銀 貫 匁 18,301,889	銀 貫 匁 18,320,575	銀 貫 匁 18,405,288
②不動産評価額	3,094,813	3,104,713	3,094,713	3,214,713	3,263,713	3,283,713
③「惣有物高」=不動産額込み資本金	19,860,046	19,957,950	19,992,420	21,516,602	21,584,288	21,689,000
④修正資本金=③-②	18,177,837	18,172,910	18,152,300	19,779,721	19,875,363	19,153,305
⑤「貸シ方」合計=不動産除外資産額	18,039,247	18,184,792	18,565,128	20,497,113	20,574,496	20,661,112
⑥不動産追加総資産額=⑤+②	21,134,059	21,289,505	21,659,841	23,711,826	23,838,208	23,944,825
⑦傘下店への投融資額	10,388,234	10,428,884	10,138,160	12,320,265	11,789,732	11,175,300
⑧不良債権額	1,682,209	1,785,040	1,840,120	1,736,881	1,708,925	2,535,696
⑨修正資産額=⑥-⑧	19,451,850	19,504,465	19,819,721	21,974,945	22,129,283	21,409,129
対資産・資本金比率(不動産除外)=①/⑤	92.9%	92.7%	91.0%	89.3%	89.0%	89.1%
対資産・資本金比率(不動産込)=③/⑥	94.0%	93.7%	92.3%	90.7%	90.5%	90.6%
対修正資産額・修正資本金比率=④/⑨	93.5%	93.2%	91.6%	90.0%	89.8%	89.5%
対不動産除外資産・不良債権比率=⑧/⑤	9.3%	9.8%	9.9%	8.5%	8.3%	12.3%
対修正資産・不良債権比率=⑧/⑨	8.6%	9.2%	9.3%	7.9%	7.7%	11.8%
対不動産除外資本金・店投資比率=⑦/①	62.0%	61.9%	60.0%	67.3%	64.4%	60.7%
対不動産除外資産・店投資比率=⑦/⑤	57.6%	57.3%	54.6%	60.1%	57.3%	54.1%
対修正資産額・店投資比率=⑦/⑨	53.4%	53.5%	51.2%	56.1%	53.3%	52.2%
対不動産込み資本金・店投資比率=⑦/③	52.3%	52.3%	50.7%	57.3%	54.6%	51.5%

1732 上期	1732 下期	1733 上期	1733 下期	1734 上期	1734 下期	1735 上期	1735 下期	1736 上期
銀 貫 匁 18,436,149	銀 貫 匁 18,523,033	銀 貫 匁 18,570,798	銀 貫 匁 20,892,300	銀 貫 匁 20,985,180	銀 貫 匁 20,979,142	銀 貫 匁 20,839,525	銀 貫 匁 20,770,498	銀 貫 匁 20,726,683
3,283,713	3,287,213	3,287,213	3,587,213	3,587,213	3,597,213	3,597,213	3,597,213	3,597,212
21,719,861	21,810,245	21,858,010	24,479,512	24,572,392	24,576,354	24,436,737	24,367,710	24,323,896
19,334,246	19,309,085	18,712,060	21,166,962	21,155,579	20,790,992	20,320,295	20,013,959	19,988,569
20,784,876	20,213,060	20,542,266	23,298,994	24,104,381	24,189,508	24,853,082	24,951,506	24,536,740
24,068,588	23,500,273	23,829,478	26,886,207	27,691,594	27,786,721	28,450,295	28,548,719	28,133,952
9,789,801	9,643,600	10,466,959	12,510,904	11,270,904	10,856,704	9,686,704	8,426,704	8,865,881
2,385,616	2,501,160	3,145,950	3,312,551	3,416,813	3,785,362	4,116,442	4,353,751	4,335,327
21,682,973	20,999,113	20,683,528	23,573,656	24,274,781	24,001,359	24,333,852	24,194,968	23,798,625
88.7%	91.6%	90.4%	89.7%	87.1%	86.7%	83.9%	83.2%	84.5%
90.2%	92.8%	91.7%	91.0%	88.7%	88.4%	85.9%	85.4%	86.5%
89.2%	92.0%	90.5%	89.8%	87.2%	86.6%	83.5%	82.7%	84.0%
11.5%	12.4%	15.3%	14.2%	14.2%	15.6%	16.6%	17.4%	17.7%
11.0%	11.9%	15.2%	14.1%	14.1%	15.8%	16.9%	18.0%	18.2%
53.1%	52.1%	56.4%	59.9%	53.7%	51.7%	46.5%	40.6%	42.8%
47.1%	47.7%	51.0%	53.7%	46.8%	44.9%	39.0%	33.8%	36.1%
45.1%	45.9%	50.6%	53.1%	46.4%	45.2%	39.8%	34.8%	37.3%
45.1%	44.2%	47.9%	51.1%	45.9%	44.2%	39.6%	34.6%	36.4%

1736 下期	1737 上期	1737 下期	1738 上期	1738 下期	1739 上期	1739 下期	1740 上期	1740 下期
銀 貫 匁 26,724,625	銀 貫 匁 26,571,839	銀 貫 匁 26,173,045	銀 貫 匁 26,102,768	銀 貫 匁 25,783,221	銀 貫 匁 25,715,422	銀 貫 匁 30,179,907	銀 貫 匁 30,152,330	銀 貫 匁 30,060,327
3,628,087	3,628,087	3,582,587	3,852,587	4,105,087	4,105,087	4,105,087	4,105,087	4,105,087
30,661,827	30,199,926	30,025,632	29,955,356	29,888,308	29,820,509	34,284,994	34,257,417	34,165,415
26,486,850	25,955,527	25,792,178	25,385,637	25,546,072	25,394,241	30,035,021	29,844,919	29,983,128
32,039,599	31,168,768	31,298,236	30,906,553	30,559,115	30,771,319	34,685,271	34,923,938	34,832,456
35,667,686	34,796,855	34,880,823	34,759,140	34,664,202	34,876,406	38,790,358	39,029,025	38,937,543
13,063,238	12,659,488	12,556,863	14,763,522	15,726,238	14,760,488	19,785,832	19,358,332	20,321,332
4,174,977	4,244,399	4,233,454	4,569,719	4,342,236	4,426,268	4,249,973	4,412,498	4,182,287
31,492,709	30,552,456	30,647,369	30,189,421	30,321,966	30,450,138	34,540,385	34,616,527	34,755,256
83.4%	85.3%	83.6%	84.5%	84.4%	83.6%	87.0%	86.3%	86.3%
86.0%	86.8%	86.1%	86.2%	86.2%	85.5%	88.4%	87.8%	87.7%
84.1%	85.0%	84.2%	84.1%	84.2%	83.4%	87.0%	86.2%	86.3%
13.0%	13.6%	13.5%	14.8%	14.2%	14.4%	12.3%	12.6%	12.0%
13.3%	13.9%	13.8%	15.1%	14.3%	14.5%	12.3%	12.7%	12.0%
48.9%	47.6%	48.0%	56.6%	61.0%	57.4%	65.6%	64.2%	67.6%
40.8%	40.6%	40.1%	47.8%	51.5%	48.0%	57.0%	55.4%	58.3%
41.5%	41.4%	41.0%	48.9%	51.9%	48.5%	57.3%	55.9%	58.5%
42.6%	41.9%	41.8%	49.3%	52.6%	49.5%	57.7%	56.5%	59.5%

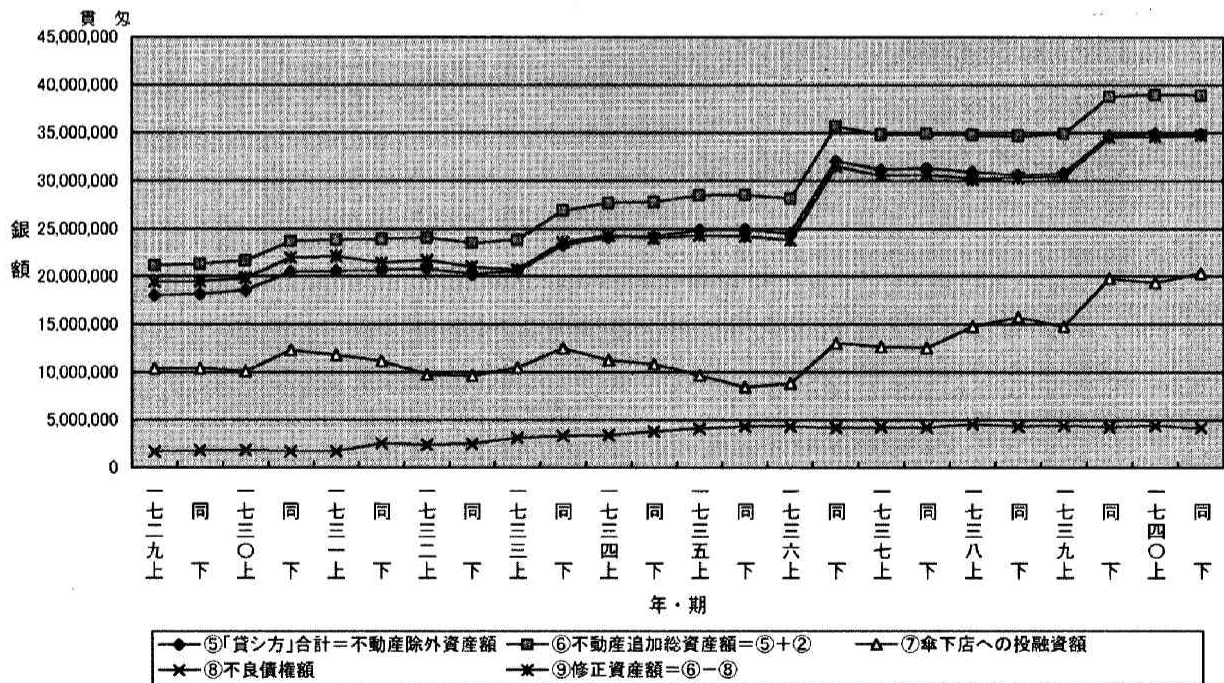
(出所)『大元方勘定目録』(三井文庫所蔵資料, 資料番号=統 2886~統 2909)を要約

《図6》大元方の資本額と不動産額の推移 1729年上期末～1740年下期末



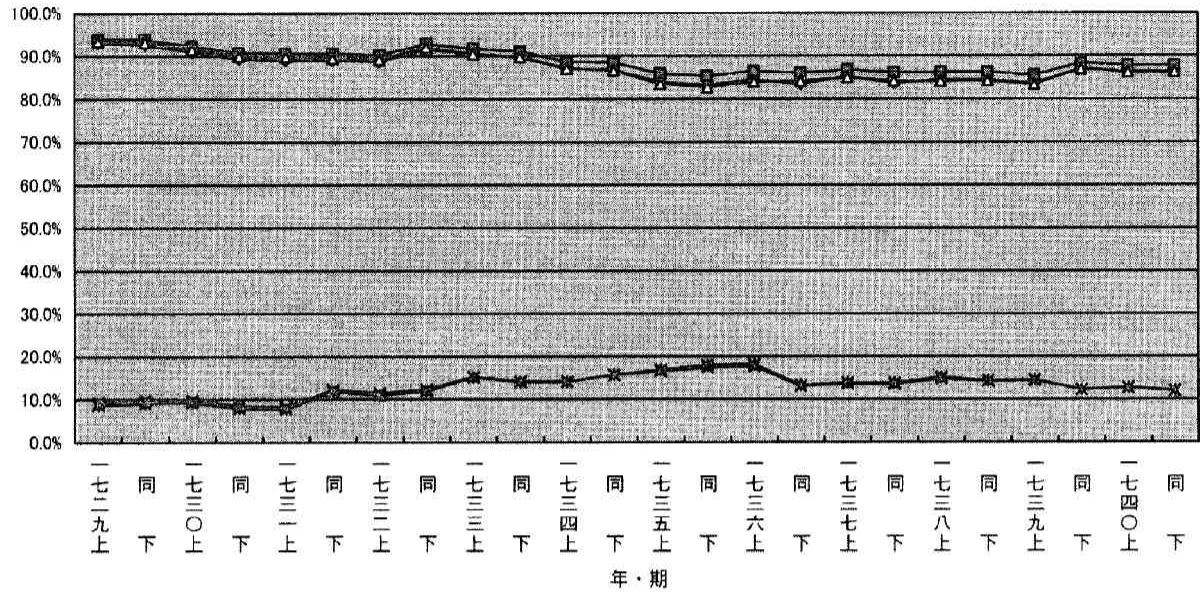
(出所)『大元方勘定目録』(三井文庫所蔵資料, 資料番号=続 2886~続 2909) を要約

《図7》大元方の資本額と不動産額の推移 1729年上期末～1740年下期末



(出所)『大元方勘定目録』(三井文庫所蔵資料, 資料番号=続 2886~続 2909) を要約

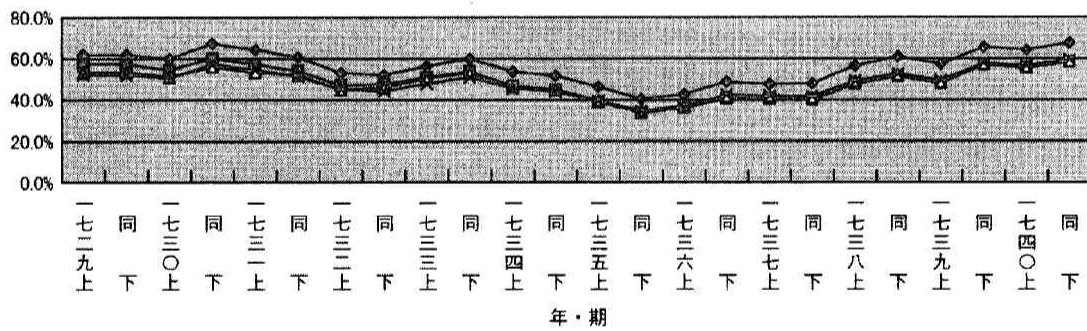
《図 8》大元方の資本金比率・不良債権比率の推移 1729 年上期末～1740 年下期末



◆ 対資産・資本金比率(不動産除外) = ① / ⑤   
 ◼ 対資産・資本金比率(不動産込) = ③ / ⑥   
 ▲ 対修正資産額・修正資本金比率 = ④ / ⑨  
 ✕ 対不動産除外資産・不良債権比率 = ⑧ / ⑤   
 ※ 対修正資産・不良債権比率 = ⑧ / ⑨

(出所) 『大元方勘定目録』(三井文庫所蔵資料, 資料番号 = 続 2886 ~ 続 2909) を要約

《図 9》大元方の傘下店投資比率の推移 1729 年上期末～1740 年下期末



◆ 対不動産除外資本金・店投資比率 = ⑦ / ①   
 ◼ 対不動産除外資産・店投資比率 = ⑦ / ⑤  
 ▲ 対修正資産額・店投資比率 = ⑦ / ⑨   
 ✕ 対不動産込み資本金・店投資比率 = ⑦ / ③

(出所) 『大元方勘定目録』(三井文庫所蔵資料, 資料番号 = 続 2886 ~ 続 2909) を要約

分を適当に要約したものを、《表4》として掲げる。

《図6》に、1729年(享保14)上期末より1740年(元文5)下期末迄における「大元方」の各期末の不動産等除外資本金額、不動産評価額、不動産込み資本金額、及び不動産等込み資本金額から不良資産額を差し引いた修正自己資本金額の夫夫を折れ線グラフにして示す。

1729年(享保14)上期末より1740年(元文5)下期末迄における「大元方」の資産額、店々への投融資額、及び不良債権額の夫夫の推移を折れ線グラフにして《図7》として掲げる。

《図8》として、1729年(享保14)上期末より1740年(元文5)下期末迄における「大元方」の各期末の資産額に対する各種資本金額の比率、資産額に対する不良債権比率を折れ線グラフにして示す。

《図9》に、「大元方」から傘下の店々への投資額の資本金額や資産額に比率について、1729年(享保14)上期末より1740年(元文5)下期末迄の推移を、折れ線グラフにして示す。

「大元方」の資本金額は、前の時期同様、「三年勘定」の際に階段状に増大している。1730年代半ばから店投融資の絶対額も対資産比率も増大しているのは、「両替店」の留保利益振替額の増加や資金需要に応じた利付き融資等の「両替店」投融資額増に因る面が大であるが、「本店」の「塞り貸し」(不良債権化した売掛金)増加に対応した後向の融資の増加も無視できない。元禄期の三井越後屋呉服店が急成長した大きな要因の「現銀掛値なし」の正札現金販売商法<sup>かけね</sup>の精神が、此頃には薄れていたと考えられる。

#### 4 1729年上期～1740年下期の収益・費用・純損益の推移

1729年(享保14)上期より1740年(元文5)下期迄の「大元方勘定目録」の損益計算書部分の内、収益の部を適当に要約したものを、《表5》として掲げる。

《表6》に、1729年(享保14)上期より1740年(元文5)下期迄の「大元方勘定目録」の損益計算書部分の内、費用の部を適当に要約して掲げる。

《図10》に、1729年(享保14)上期より1740年(元文5)下期迄における「大元方」の各期の収益額、費用額、及び純損益の推移を折れ線グラフにして示す。

6期毎の「三年勘定」の際に収益及び純利益が跳上がっている事は、前の時期と同様である。但、1736年下期の収益合計の銀8807貫17匁余の内、銀4487貫853匁余が、幕府に拠る元文金銀への改鑄に伴う両替差益・為替差益であった事は、注目に値しよう。1734年上期迄は「三年勘定」の無い年でも少額ながら「延銀」を計上する、即ち、経常的な収支差額が黒字であるのが常態であったが、同年下期からは「不足」即ち赤字が常態へと変わっている。

〔表 5〕大元方の収益の部の要旨 1729 年上期～1740 年下期

「入方」(収益の部)	1729 上期	1729 下期	1730 上期	1730 下期	1731 上期	1731 下期
	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁
店々功納外延銀入				2,164,883		
内 本店				1,869,856		
両替店				295,027		
店々功納	183,750	195,750	188,750	188,750	188,750	188,750
1 内 本店	56,250	56,250	56,250	56,250	56,250	56,250
向店	27,500	27,500	27,500	27,500	27,500	27,500
両替店	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
糸店		12,000				
間之町店			5,000	5,000	5,000	5,000
店々臨時納	79,525	82,225	67,925	67,925	86,625	86,625
内 本店	58,000	58,000	49,000	49,000	64,500	64,500
向店	4,125	4,125	4,125	4,125	4,125	4,125
両替店	17,400	17,400	14,800	14,800	18,000	18,000
糸店		2,700				
江戸有家宿賃取立高, 普請入目差引ノ	29,623	42,140	35,346	35,097	35,642	36,156
大坂有家宿賃取立高, 町儀・普請入目差引ノ	6,248	7,978	8,105	6,464	8,608	8,913
日野屋店宿賃請取	860	860				
浮有物入	3,300					
家代請取			10,000			
利足入払差引ノ取方	36,762	81,634	29,823	43,316	12,504	60,617
御為替方徳用入用差引ノ	15,635	9,448	15,932	11,798	12,699	8,538
下屋敷宿賃, 町儀諸入用差引ノ入ニ成ル	32				13	
新田収納高諸入用差引ノ						
金直達徳入	3,644	1,223	314	339	110	156
建相場直達徳入						
増歩入払差引ノ入方						
合 銀	359,379	421,258	356,194	2,518,572	344,951	389,755
経常的な収益*	356,079	421,258	346,194	353,689	344,951	389,755

1732 上期	1732 下期	1733 上期	1733 下期	1734 上期	1734 下期	1735 上期	1735 下期	1736 上期
銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁	銀 貫 匁
			2,870,203					
			2,541,268					
			328,935					
188,750	188,750	188,750	191,250	191,250	191,250	191,250	191,250	186,250
56,250	56,250	56,250	56,250	56,250	56,250	56,250	56,250	56,250
27,500	27,500	27,500	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	
76,125	76,125	64,125	64,500	91,900	91,900	80,900	80,900	70,500
56,500	56,500	47,000	47,000	70,000	70,000	61,000	61,000	52,500
4,125	4,125	4,125	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500
15,500	15,500	13,000	13,000	17,400	17,400	15,400	15,400	13,500
40,070	35,797	36,082	39,064	39,209	36,925	42,700	37,538	38,951
9,981	7,508	7,210	6,895	7,938	282	2,610	7,822	7,142
3,300							107	
14,084	50,460	44,355	73,497	23,775	28,585		2,059	11,568
16,793	6,252	11,506	5,117	9,453	12,059	14,845	1,497	6,095
62		41						
117	133	169						
349,281	365,024	352,240	3,250,525	363,525	361,002	332,305	321,173	320,506
345,981	365,024	352,240	380,322	363,525	361,002	332,305	321,066	

1736 下期	1737 上期	1737 下期	1738 上期	1738 下期	1739 上期	1739 下期	1740 上期	1740 下期
銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁
4,008,961						4,909,845		
3,503,365						4,005,068		
505,596						904,777		
183,750	183,750	183,750	183,750	183,750	183,750	183,750	183,750	183,750
56,250	56,250	56,250	56,250	56,250	56,250	56,250	56,250	56,250
27,500	27,500	27,500	27,500	27,500	27,500	27,500	27,500	27,500
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
70,125	110,925	110,925	98,025	98,025	86,825	86,825	139,625	139,625
52,500	88,000	88,000	75,000	75,000	66,400	66,400	107,700	107,700
4,125	4,125	4,125	4,125	4,125	4,125	4,125	4,125	4,125
13,500	18,800	18,800	18,900	18,900	16,300	16,300	27,800	27,800
32,804	40,556	50,586	40,681	41,741	43,792	48,588	49,301	59,026
9,465	10,322	15,812	6,382	6,060	11,552	14,741	14,173	16,626
							1,045	
3,000						2,943		
5,162		40,944	612	74,609	82,217	94,246	65,578	176,276
5,896	9,318	11,847	9,790	9,281	13,158	16,321	15,010	14,836
		7,447		7,953		15,000		15,000
			9,064	53,221	12	1,405	13	26,851
4,487,853								
8,807,017	354,872	421,311	348,304	474,640	421,305	5,373,663	468,494	631,991
310,203	354,872	421,311	339,240	421,419	421,293	462,413	468,481	605,140

\* 経常的な収益 = 入方 (収益) 合計 - 功納外延銀 - 為替換算益 - 家代 (不動産売却額) - 浮有物入 (償却債権取立益)  
 (出所) 『大元方勘定目録』(三井文庫所蔵資料, 資料番号 = 続 2886 ~ 続 2909) を要約

《表 6》大元方の費用の部の要旨 1729 年上期~1740 年下期

「払方」(費用の部)	1729 上期	1729 下期	1730 上期	1730 下期	1731 上期	1731 下期
	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁
旦那衆御隠居料	21,530	22,310	19,030	19,030	17,530	16,530
旦那衆御賄方	171,531	199,377	177,624	175,533	176,071	175,396
旦那衆新建銀利足渡す当半期分						
旦那衆御惣領末子ナラビニ御娘分入用銀						
仲ヶ間出し切	33,127	49,243	22,043	764,252	68,060	54,557
御屋敷方附届入目	15,159	13,707	14,100	11,428	13,844	13,565
仲ヶ間普請料	2,595		28,957			
旦那衆名目役料						
旦那衆江戸上下路金	1,100	4,895	3,135	2,750	5,528	743
旦那衆於江戸御小遣雑用	8,964	8,855	12,080	7,662	7,132	8,016
店々役料	10,014	8,900	8,602	8,733	9,236	8,895
元メ名代役料	20,320	16,320	17,070	18,995	20,663	19,588
元メ隠勤料	4,750	4,300	4,300	4,300	4,300	5,050
御合力	4,635	3,716	2,261	1,242	1,907	1,073
諸方下屋敷入目	1,171	1,240	2,503	1,586	1,924	1,472
利足入払差引メ払						
御為替方利足差引メ損						
大元方会所小払	335	391	20	355	71	158
小判直違損						
持金・・・55 匁建・・・直違の損						
合 銀	295,231	333,253	311,725	1,015,865	326,265	305,043
入払差引メ (当期純損益)	64,149	88,004	44,470	1,502,707	18,686	84,712

1732 上期	1732 下期	1733 上期	1733 下期	1734 上期	1734 下期	1735 上期	1735 下期	1736 上期
銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁
17,310	16,530	17,130	15,630	18,130	18,280	19,260	18,330	12,687
203,378	175,855	174,394	175,159	175,679	170,171	197,775	170,052	173,526
					21,100	21,100	21,100	21,850
30,438	29,706	46,861	455,588	19,455	77,385	99,928	98,150	25,891
13,778	10,964	15,055	12,009	8,510	14,499	17,030	19,454	42,050
			57,314			40,338	2,776	9,087
					6,445	6,945	6,945	6,945
3,795	743	4,771	3,885		7,050	4,950	3,420	6,045
9,062	5,499	6,834	12,488	7,165	11,602	23,731	10,922	11,047
9,834	8,924	8,817	8,929	9,361	9,327	9,105	8,952	10,196
19,725	21,875	22,013	22,700	22,700	22,700	19,425	18,525	32,850
5,050	5,050	5,050	5,350	5,350	5,350	6,650	9,100	8,025
1,960	1,038	1,974	1,084	2,066	1,061	1,920	1,029	2,152
4,012	1,826	1,400	2,712	2,085	1,936	1,346	1,327	1,852
						2,228		
	78	131	176	233	145	134	189	118
318,420	278,140	304,474	773,082	270,645	367,040	471,921	390,200	364,321
30,861	86,884	47,765	2,477,444	92,880	-6,038	-139,617	-69,027	-43,814

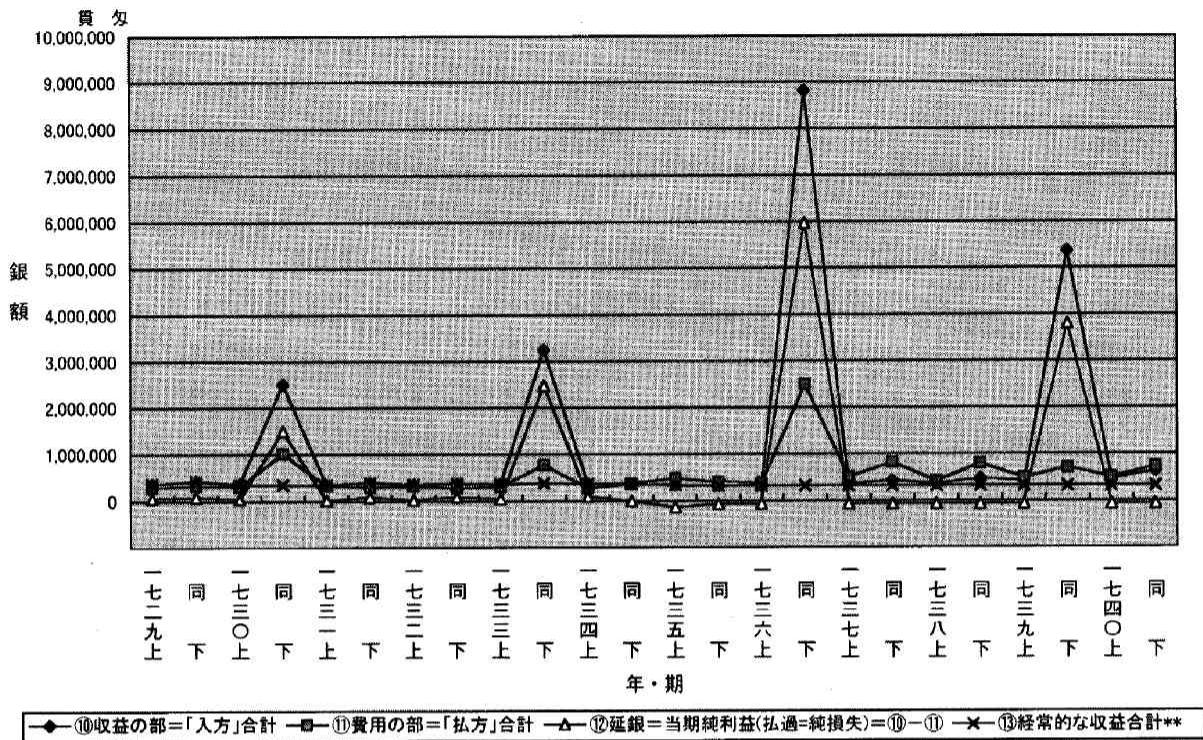
  

1736 下期	1737 上期	1737 下期	1738 上期	1738 下期	1739 上期	1739 下期	1740 上期	1740 下期
銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁	銀貫匁
13,966	16,466	16,552	13,966	16,116	16,116	16,116	16,116	16,202
173,654	173,366	204,751	173,438	173,438	257,461	257,363	257,363	303,786
				32,750	32,750			
22,600	24,750	24,750	24,750	25,500	24,600	25,350	25,850	25,100
1,641,292	154,658	415,628	52,192	393,788	48,952	151,969	27,281	166,943
24,891	37,038	37,794	38,346	26,277	34,809	116,495	51,189	71,072
6,945	6,945	7,445	7,875	8,520	12,375	12,445	11,945	11,945
2,269	1,225	6,579	3,493	2,450	6,105	2,613	8,938	1,953
11,692	12,379	14,203	13,185	26,896	20,439	21,635	26,118	22,484
8,800	11,040	8,885	10,424	9,730	11,332	11,582	13,388	13,284
30,138	30,138	30,963	32,813	32,813	44,725	44,725	43,250	43,250
7,925	7,925	8,140	6,790	7,310	4,165	2,045	5,165	4,615
1,423	2,165	1,344	2,471	1,585	3,436	5,282	3,060	2,092
1,787	4,202	1,711	5,869	6,572	4,378		5,809	10,935
	24,925							
	355	321	290	220	443	212	445	600
		114	41,072		30,000			332
552,224							30,000	30,000
2,499,960	507,657	820,106	418,580	794,188	489,104	702,216	496,071	723,993
6,307,057	-152,786	-398,794	-70,276	-319,548	-67,799	4,671,447	-27,577	-92,002

(出所)『大元方勘定目録』(三井文庫所蔵資料, 資料番号=統 2886~統 2909)を要約



《図10》大元方の収益・費用・純損益の推移 1729年上期～1740年下期



(出所)『大元方勘定目録』(三井文庫所蔵資料, 資料番号=続2886~続2909)を要約

## おわりに

三井家大元方は、本稿で対象とした1719年(享保4)上期から1740年(元文5)下期迄の間は、不動産除外資本金の「有銀」や不動産追加資本金の「惣有物高」を順調に増加させていった。不良債権の不動産除外資産額に対する比率が1719年上期末の6.7パーセントから1740年下期末の12.0パーセントと漸増傾向にあったが、貸倒に備えたりザーブ=「利足積」の引当も多く、重大な問題にはなっていないと考えられる。又、非常用に退蔵した穴蔵金銀も蓄積を増大させ続けた。寧ろ、余剰資金の有効な再投資先を見出せ無かった事が、後の不良債権の増大や穴蔵金銀の架空資産化(賀川(1985)16頁参照)をもたらす一因と成ったのでは無からうか。但、1730年代半ば(享保末期)から、「大元方」の経常的な収支差額は赤字が常態となり、不良債権の積極的な償却が影を潜めだし、「本店」の不良債権増大に対応した後向の融資が増大し始めている。詰り、1774年の企業分割の要因となった不良債権の「大元方」財政圧迫や「本店」の経営不振は、同苗不和の原因(北家第3代・三井高房の八郎右衛門襲名, 高房による「連家」2軒の追加)と共に、享保末-元文期から芽生え始めていたと言えよう。

\*本論文は、第38回経営史学会大会(2002年9月21日: 國學院大学)於る飯野幸江(小樽短期大学助教授)との共同報告の前半部分(後半部分は1741年上期から1773年下期迄の三井家大元方の経営分析)に加筆・修正したものである。又、平成13年度-15年度文部科学省科学研究費補助金基盤

研究 (C) (1) に拠る共同研究 (研究分担者 = 飯野幸江) 「江戸時代における三井家大元方の経営分析および財務内容と会計政策との関連性探求」の研究成果の一部でもある。

#### 【引用文献】

- 飯野幸江 (2002) 「寛保・延享期における三井大元方勘定目録」『研究紀要』第 31 号 (小樽女子短期大学, 2002 年 3 月)
- 今井典子 (1974) 「大元方「家有帳」」『三井文庫論叢』第 8 号
- 賀川隆行 (1985) 『近世三井経営史の研究』吉川弘文館
- 三井文庫 [編] (1973) 『三井事業史 資料篇一』三井文庫
- 三井文庫 [編] (1980) 『三井事業史 本篇第一巻』三井文庫
- 中田易直 (1959) 『三井高利』《人物叢書》吉川弘文館
- 西川登 (1993) 『三井家勘定管見—江戸時代の三井家における内部会計報告制度および会計処理技法の研究—』白桃書房
- 西川登 (1995) 「会計組織と簿記技法」(安岡重明・天野雅敏 [編集] 『日本経営史 1: 近世的経営の展開』岩波書店, 第 5 章所収)
- 西川登 (2002 a) 「財務数値からみた三井家初期の大元方」『商経論叢』第 38 巻第 1 号 (神奈川大学, 2002 年 8 月)
- 西川登 (2002 b) 「三井家初期の大元方における会計計算および表示形式の試行錯誤的変遷」『大坂経大論集』第 53 巻第 3 号 (大阪経済大学, 2002 年 9 月)
- 高寺貞男 (1978) 「初期の三井大元方における簿外不動産追補会計の解析」『経済論叢』第 122 巻第 3・4 号 (京都大学, 1978 年 10 月。高寺・醍醐 (1979) 『大企業会計史の研究』第章に加筆訂正の上所収)

#### 【利用資料】

『享保四年亥正月ヨリ七月十四日マテ大元方勘定目録』(三井文庫所蔵資料, 資料番号 = 続 2869。1719 年上期) ~ 『元文五庚申年七月ヨリ極月迄大元方勘定目録』(続 2909。1740 年下期)